

## 学位審査結果報告書

学位申請者氏名 河端 和音

学位論文題目 Prolonged blockade of the cervical sympathetic nerve by stellate ganglion block accelerates therapeutic efficacy in trigeminal neuropathy

(星状神経節ブロックによる交感神経遮断時間が三叉神経ニューロパチーの治療効果に及ぼす影響)

審査委員 (主査)

吉岡 泉



(副査)

富永 和宏



(副査)

小野堅太郎



### 学位審査結果の要旨

星状神経節ブロック (stellate ganglion block: SGB) は頸部交感神経節を一過性に遮断することで支配領域の組織血流量を増加させる。SGB による交感神経遮断効果は組織血流量に比例するため、SGB の治療効果に影響することが予測される。申請者らは顎矯正手術後の三叉神経ニューロパチー患者を対象として、異なる作用時間の局所麻酔薬で SGB を施行し、交感神経遮断時間と治療効果について検討した。

顎矯正手術前後に感覚検査 (電流知覚閾値検査, 精密触覚機能検査, 温冷覚検査) を行い、三叉神経ニューロパチーと診断され、SGB による治療を希望した 28 名 (52 神経) を対象とした。対象を作用時間が長いレボブピバカイン投与群 (Levo 群) と作用時間が短いメピバカイン投与群 (Mepi 群) に無作為に割り付けた。SGB は超音波ガイド下で行い、各局所麻酔薬を 5ml 注入した。交感神経遮断の指標である顔面部血流量, 皮膚温ならびに示指の灌流指数を経時的に測定した。さらに SGB 開始後 10 日目と術後 3 か月に感覚検査を実施し、治療効果を評価した。

Levo 群は Mepi 群と比較して交感神経遮断時間が有意に長く、感覚検査は有意に改善していた。これらの結果から SGB において交感神経遮断時間を延長させると、三叉神経ニューロパチーの治療効果が改善する可能性が示された。

この研究の内容に関して、申請者の河端和音氏に対し、主査と 2 名の副査から、質疑が行われた。本論文の新規性と独創性、研究対象の選択基準、結果の解釈などについて質問したが、概ね適切な回答を得た。総じて、審査委員会では本論文を学位論文として価値あるものと判断した。